

さくら



令和7年11月10日(月)

人間関係の基本を考える（その2）

悪口を言わない

先日、打ち合わせのために入ったお店での出来事です。隣のテーブルに、若い三人組（男性1名、女性2名）が後から座りました。注文を終えると、男性が同僚への悪口を大きな声で話し始めました。内容は仕事上の不満です。二人の女性は黙って聞いていましたが、隣席の私たちにも、その話が否応なく耳に入ってきました。

しばらくして、一人の女性が口を開きました。「せっかくの食事なんやから、楽しく食べへん。今、言ってることが正しいと思うんやったら、〇〇さんに直接聞いてみたらええやん」続いて、もう一人の女性が言いました。「私もそうした方がええと思うわ。もしかしたら、あんたが思ってるんと違うところに真意があるかもしれへんやん。悪口言うたら溝が深まるだけやで」

女性たちの正論に気づかされたのか、男性はばつが悪そうに悪口をやめました。私も心の中で「その通りだ」とつぶやきました。

悪口を言って物事が解決することはありません。それどころか、人間関係の溝が深まるばかりです。また、悪口を聞かされる人は不快な思いをしますし、悪口を言う人への周囲からの信頼も失われていきます。このことについて、皆さんはどう思いますか。

相手を肯定する

誰かと会話をしているとき、「この人とは話がしやすい」と感じる場合があります。このような人に共通しているのは、話にしっかりと耳を傾けてくれることや、常に肯定的な態度で接してくれることです。反対に、「この人と話しているとじっくりこない」「時には嫌だな」と感じる人には、次のような共通点があります。それは、自分の話ばかりして人の話を聞かないこと、そして、人の話に対して否定的な態度をとることです。

例えば、会話の中で相手が「なるほど」「そうですね」といった肯定的な言葉を返してくれるだけで、会話はスムーズに進みます。このような短い言葉だけでも、話し手は「自分の話を理解してくれている」と感じ、気持ちよく会話を続けることができます。

また、相手に否定的な意見を伝えなければならない場面でも、理由を添えて丁寧な言葉で説明をすれば、多くの場合納得してもらうことができます。

周囲から信頼を集め、好かれている人は、人の話をしっかり聞き、相手に対して肯定的な態度をとることのできる人です。日々の人間関係において、この姿勢を大切にしていきたいでしょう。

次回の「さくら 第30号」は、「人間関係の基本を考える（その3）」として、「感謝」「福を分かち合う」を題材にします。皆さんなりに、この二つのことについて考えてみてください。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

